第６部　身体状況

1　肥満とやせの状況

(1)　肥満とやせの状況

肥満者の割合は、男性では約３割、女性では約２割。

BMI（Body Mass Index）の判定基準による肥満の状況を図98に示した。

「肥満」は、男性では28.9%、女性では21.5%で、男性の40歳代が34.5%と最も高い。
「やせ」は20歳代女性では10.0%で、30歳代女性が14.9%と最も高い。

※参考として、H13及びH16の県民健康・栄養調査とH18国民健康・栄養調査結果を併記した。

図98-1　年代別の肥満の状況（男性）

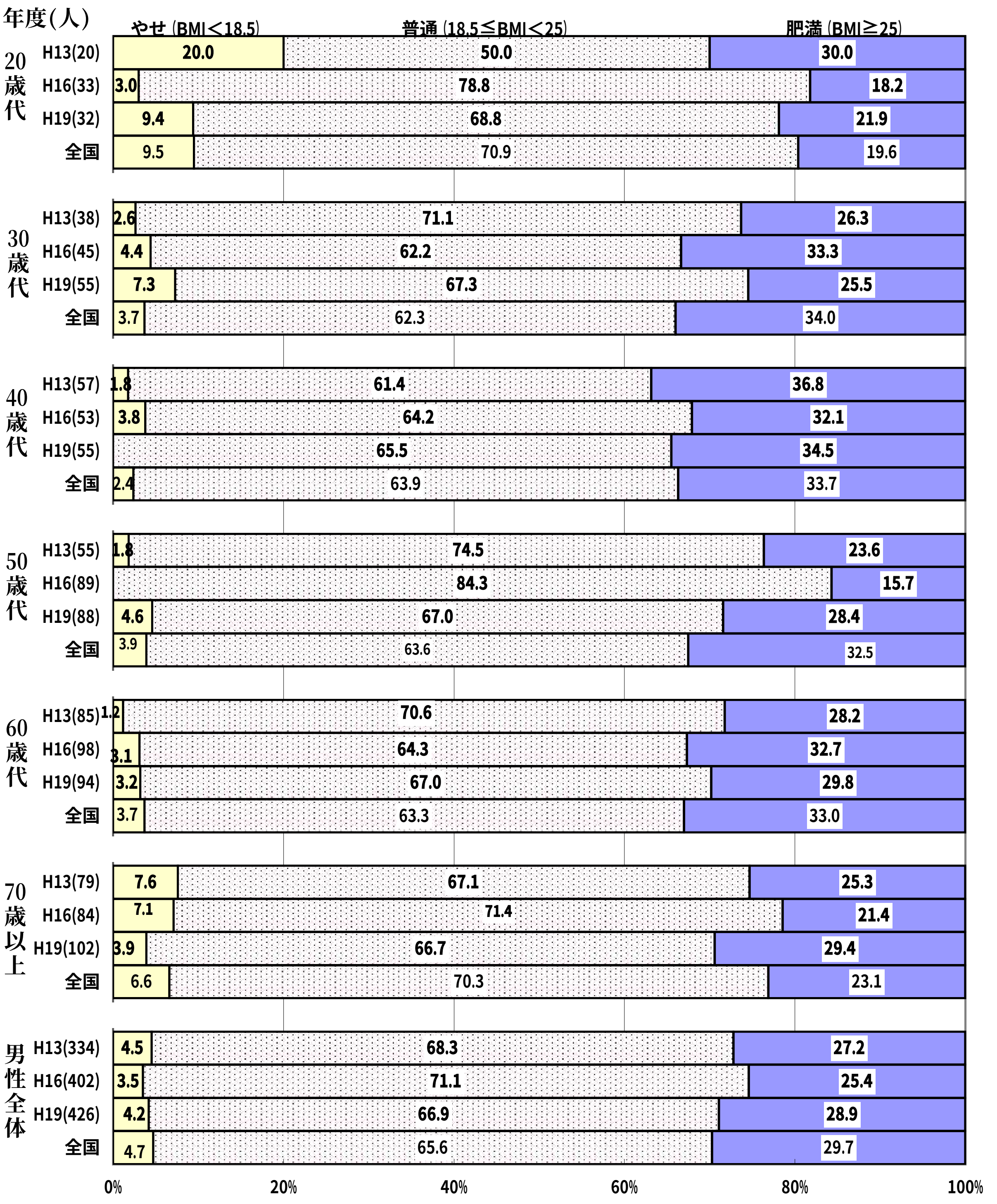
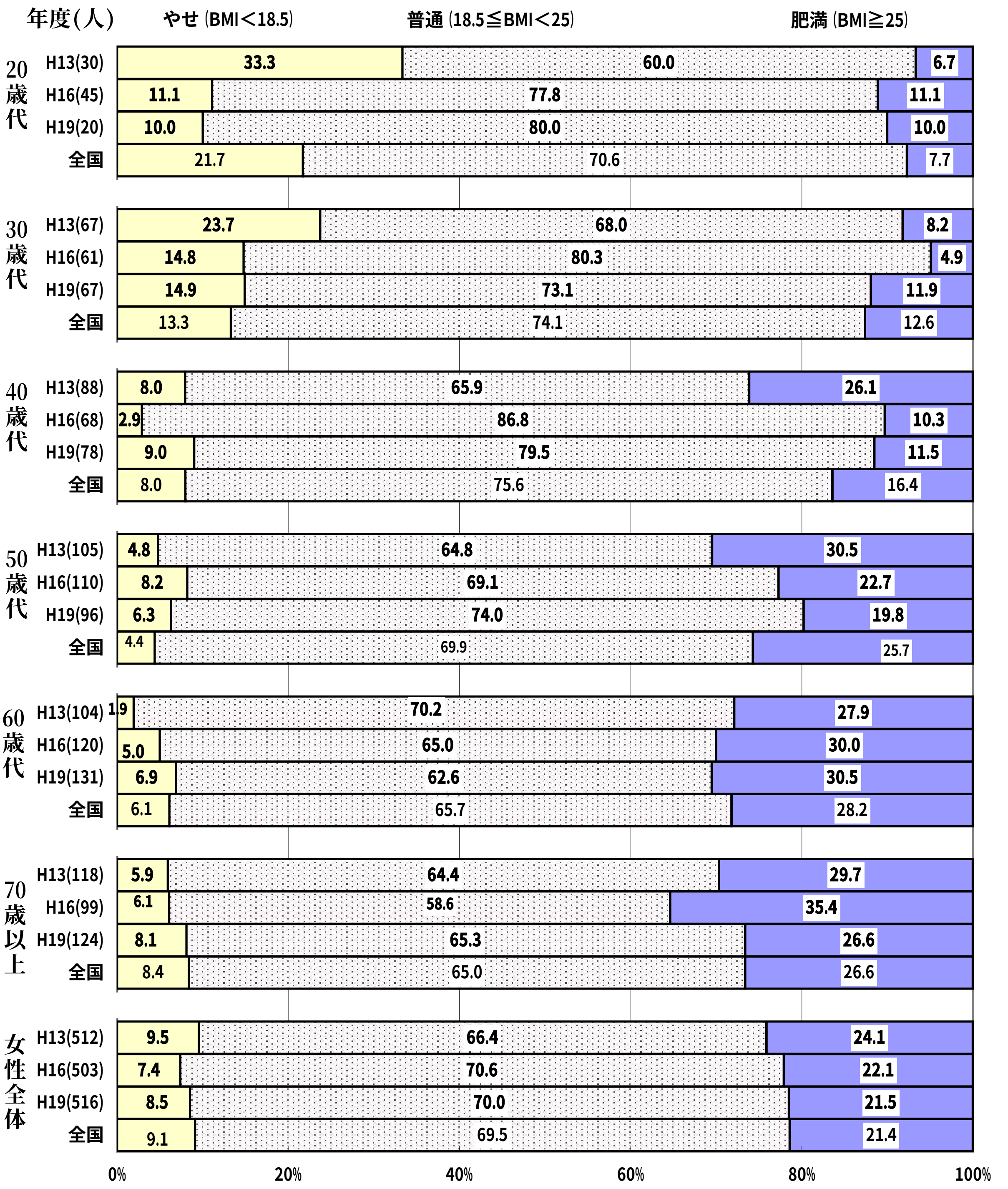


図98-2 年代別の肥満の状況（女性）



2　高血圧症の状況

高血圧症有病者の割合は、男性では約５割、女性では約４割。

　2004年日本高血圧学会の分類法及び「血圧を下げる薬の服薬」の有無により判定した血圧の状況を図99に示した。
　有病者の割合は、男性では49.3%、女性40.3%で、予備群（正常高値）の割合は男性12.4%、女性10.1%となっている。

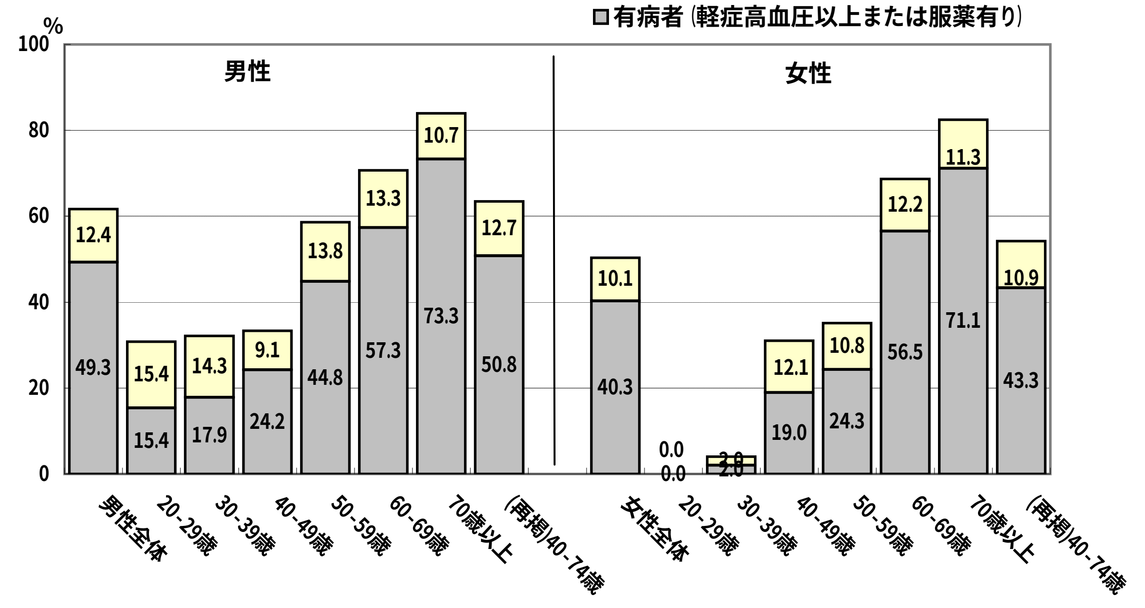


図99　高血圧症有病者・予備群の状況

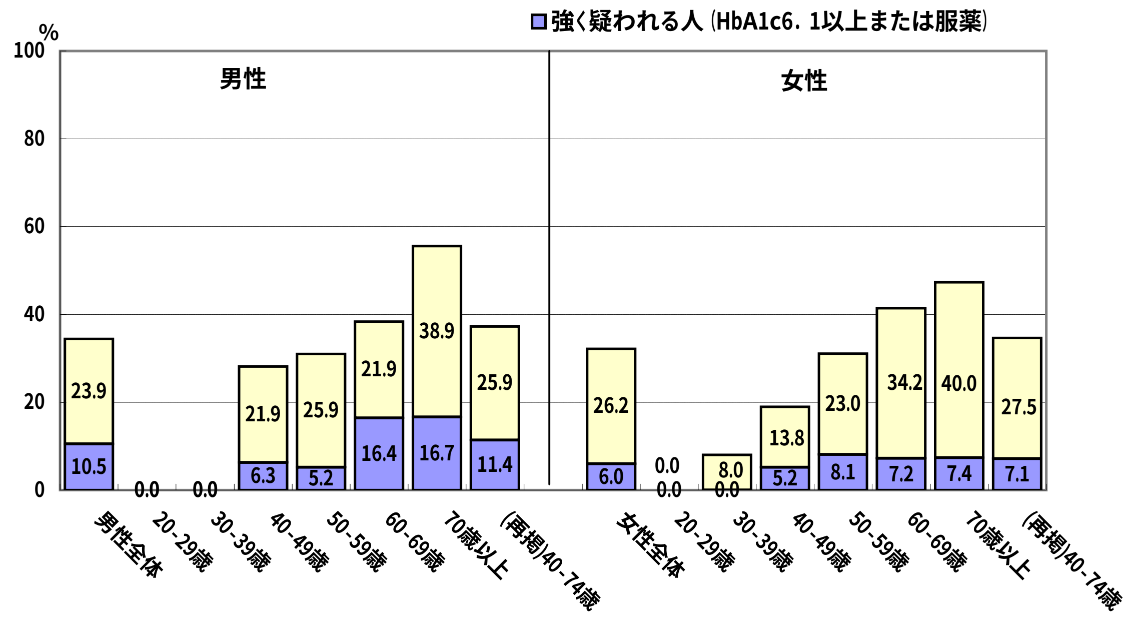
≪高血圧症有病者・予備群の定義≫
「都道府県健康・栄養調査マニュアル（厚生労働省）」による。
・「有病者」は、収縮期血圧が140mmHg以上、または拡張期血圧が90mmHg以上の者、若しくは血圧を下げる薬の服用者。
・「予備群」は、収縮期血圧が130mmHg以上140mmHg未満かつ拡張期血圧が90mmHg未満の者。収縮期血圧が140mmHg未満かつ拡張期血圧が85mmHg以上90mmHg未満である者。

3　糖尿病の状況

「糖尿病が強く疑われる人」及び「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合は、約３割。

国民健康・栄養調査方式により判定した「糖尿病が強く疑われる人」及び「糖尿病の可能性を否定できない人」の割合を図100に示した。
「糖尿病が強く疑われる人」の割合は男性10.5%、女性6.0%、「糖尿病の可能性が否定できない人」の割合は男性23.9%、女性26.2%となっている。

図100　糖尿病の状況



≪糖尿病有病者・予備群の定義≫
「都道府県健康・栄養調査マニュアル（厚生労働省）」による。
・「有病者」は、HbA1c　6.1以上又は血糖を下げる薬を服用している者。
・「予備群」は、HbA1c　5.5以上6.1未満の者。

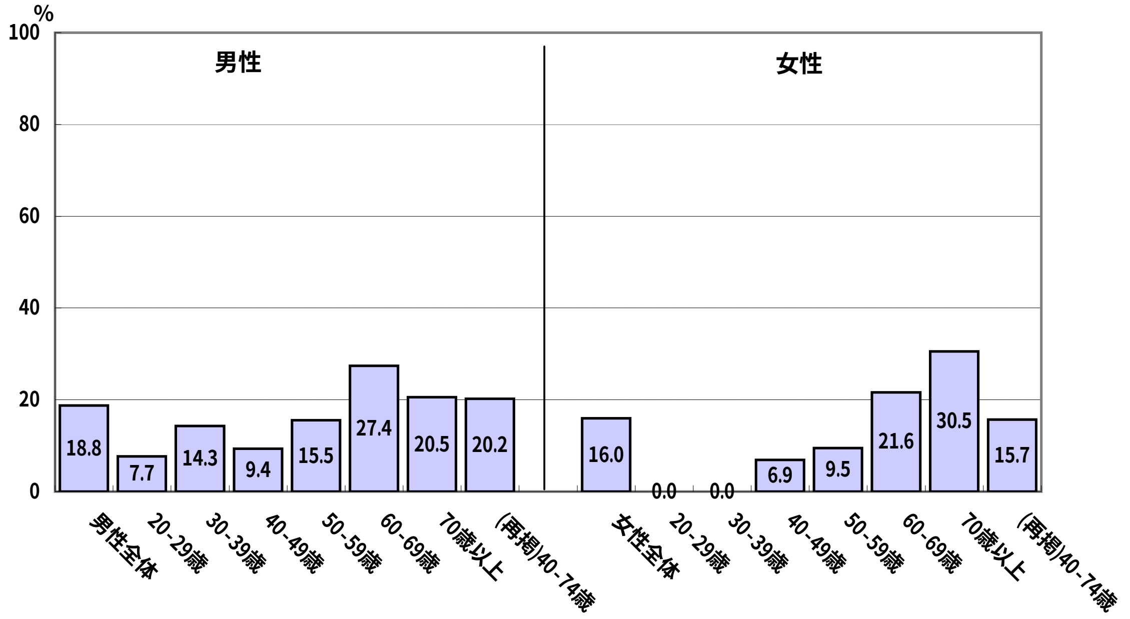
4　脂質異常症の状況

「脂質異常症が疑われる人」の割合は、約２割。

国民健康・栄養調査方式により判定した「脂質異常症が疑われる人」の割合を図101に示した。

「脂質異常症が疑われる人」の割合は、男性18.8%、女性16.0%となっている。

図101　脂質異常症が疑われる人の割合



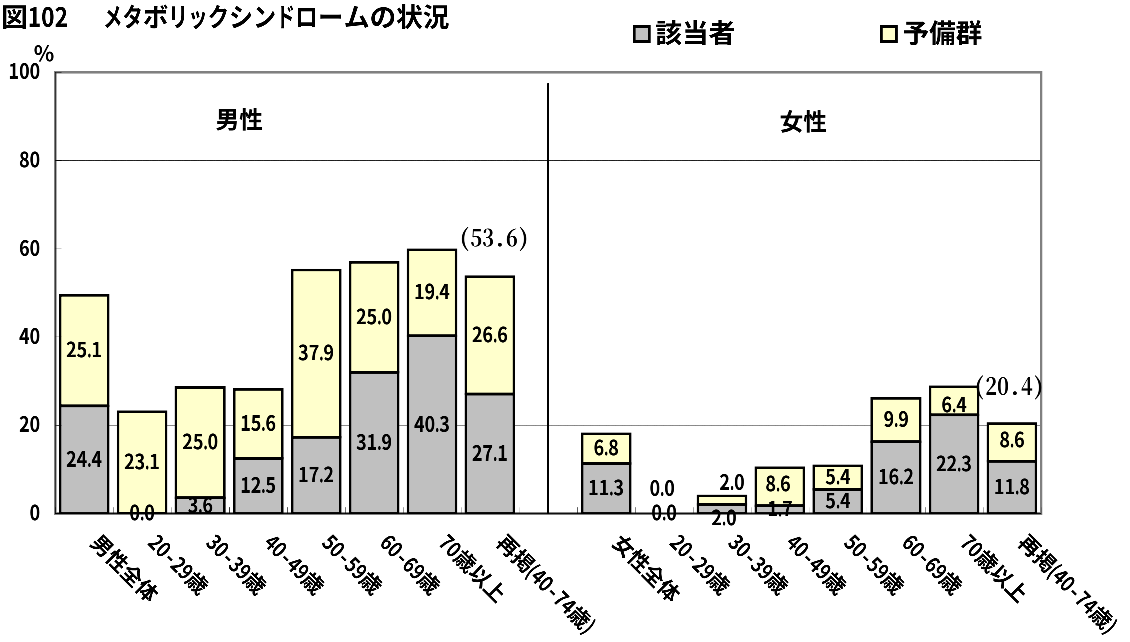
≪脂質異常症有病者の定義≫
「都道府県健康・栄養調査マニュアル（厚生労働省）」による。
・「有病者」は、HDLコレステロールが40mg/dl未満、若しくはコレステロールを下げる薬の服用者。

5 メタボリックシンドロームの状況

「メタボリックシンドロームが強く疑われる人（該当者）」及び「予備群と考えられる人（予備群）」の人の割合は、４０から７４歳では、男性は約５割、女性は約２割。

国民健康・栄養調査方式により判定した「メタボリックシンドロームが強く疑われる人（該当者）」及び「予備群と考えられる人（予備群）」は、40歳から74歳の男性53.6%、女性20.4%となっている。

図102　メタボリックシンドロームの状況



注:合計( )は四捨五入のため内訳の計と一致しない場合がある

≪メタボリックシンドローム該当者・予備群の定義≫
「都道府県健康・栄養調査マニュアル（厚生労働省）」による。
ウエスト周囲径［男性 85ｃｍ以上、女性 90ｃｍ以上］かつ、次の３項目のうち２項目以上該当する者を「該当者」、１項目該当する者を「予備群」としている。
①HDLコレステロール40㎎/dl未満、またはコレステロールを下げる薬服用。
②収縮期血圧130mmＨｇ以上、かつ／または　拡張期血圧85mmＨｇ以上、若しくは血圧を下げる薬服用。

6 血液検査

血色素量及びヘマトクリット値

血色素量またはヘマトクリット値が基準値未満（男性血色素量13.5/dl未満またはヘマトクリット値39.8%未満、女性血色素量11.3g未満またはヘマトクリット値33.4%未満）の人の割合を図103に示した。
基準値未満の人の割合は、男性14.1%、女性6.7%となっている。

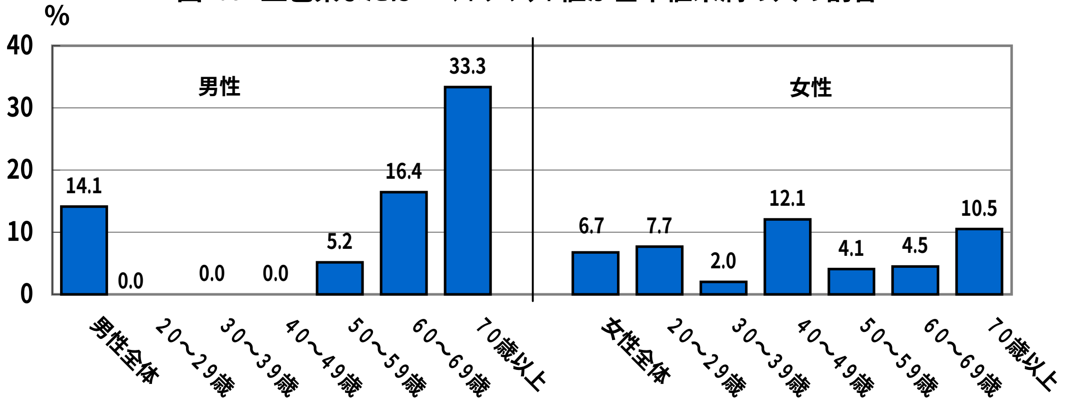



図103 血色素またはヘマトクリット値が基準値未満の人の割合